



日中国交正常化 50 周年

日中国交正常化 50 周年記念
日中未来創発ワークショップ
実施報告書

日中国交正常化50周年記念

日中未来創発ワークショップ実施報告書

要 約

(エグゼクティブ・サマリー)

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて日中両国間の人的往来が著しく減少している。その結果、日中両国間のさまざまな分野において両国民による直接交流の機会が損なわれており、加えて日中両国を取り巻く国際情勢の変化も相重なり、日本と中国の相手国に対する国民感情も悪化傾向が続いている。

このような現状を背景に、(公財) 笹川平和財団・笹川日中友好基金は、両国民の対話による相互理解を深める場を創出すると共に広く人々に交流の大切さを伝えるため、(公財) 日本科学協会、学生団体「京論壇」、学生団体「日中学生会議」の協力を得て 2022 年 9 月 6 日、9 月 9 日の 2 日間にわたって「日中未来創発ワークショップ」を開催した。

本ワークショップは、日中国交正常化 50 周年を記念し、日中両国の次世代を担う学生たちが、10 年後(2032 年)の未来に視点をおき、さまざまな分野の協力の可能性を探るため、自由な発想でありたい未来像を描き、実現のための課題を話し合い解決策やアイデアを共有するというものである。さらに、日中の若者たちが同じテーマで対話し考えを膨らませる過程でお互いの背景に理解を深め、彼らの中に新たな気づきや価値観が生まれることを目的としている。

本ワークショップには、47 名(日本人大学生 16 名、中国人留学生 31 名)が参加。2 日間の対話を通じて、共通の課題認識を持つもの同士が集まる日中の学生混合の 8 つのグループが結成され、日中協力の観点から取り組みたいテーマを選び、未来のありたい姿を想起し、実現するための企画(プロジェクト名、趣旨、活動内容、ステークホルダー等)を取りまとめた。最終的に 8 つのグループから日中連携を前提とする(1)男女共同参画プロジェクト、(2)学生を対象とするオンライン文化交流、(3)子どもを対象とする日中共同ゲームプロジェクト、(4)宇宙葬プロジェクト、(5)生徒会単位の交流促進プロジェクト、(6)メタバース空間を活用した音楽イベントプロジェクト、(7)恋愛・結婚の多様性をプロジェクト、(8)介護分野の人材・技術交流などの若者ならではの多彩なアイデアが発表された。

本報告書は同ワークショップの実施概要をとりまとめたものである。

笹川平和財団 笹川日中友好基金
2022 年 10 月

目 次

要約（エグゼクティブ・サマリー）

1. ワークショップの開催概要

- (1) 実施目的
- (2) 開催日時
- (3) 会場
- (4) 主催団体／協力団体
- (5) 参加者募集方法
- (6) 参加者
- (7) 参加者の所属校

2. ワークショップの実施成果

- (1) アウトプットサマリー
- (2) 1 日目スケジュール
- (3) 基調講演概要
- (4) ワールドカフェ（日中両国の良いところ）
- (5) ワールドカフェ（日本と中国で一緒にやってみたいこと）
- (6) グループ別テーマ設定
- (7) 2 日目 スケジュール
- (8) 2 日目ワークショップパート
テーマに影響を与える変化の兆し～ありたい未来像を描く
- (9) 最終発表（プレゼンテーション）
- (10) 講評コメント

3. ワークショップの開催告知

4. 日中国交正常化 50 周年認定行事について

5. 取材実績

6. その他、对外発信（ウェブサイト、ブログ、SNS など）

7. 参加者アンケート

8. 主催団体・協力団体

9. 実施評価（主催側の所見）

1 ワークショップの開催概要

(1) 実施目的

日本人の大学生・大学院生と中国人留学生等が、日本と中国の10年後の未来に視点をおき、日本と中国のさまざまな分野の協力の可能性について話し合い、その課題や解決策を発表する。コロナ禍の影響により交流が途絶えていたなかで、日中の学生たちが直接話し合い、お互いの背景や考え方に理解を深めることを目的として実施。

(2) 開催日時

1日目 2022年9月6日(火) 10:00～16:30

2日目 2022年9月9日(金) 13:00～17:30

(3) 会場

日本財団ビル2階 会議室

(4) 主催団体／協力団体

主催団体	公益財団法人笹川平和財団・笹川日中友好基金
協力団体	公益財団法人日本科学協会
	学生団体「京論壇」
	学生団体「日中学生会議」
企画・運営協力	株式会社フューチャーセッションズ
企画アドバイザー	山田典史氏 (BC 学院)

(5) 参加者募集方法

告知ポスターおよびウェブサイトページによる公募

(6) 参加者

日本人学生	16名
中国人留学生	31名

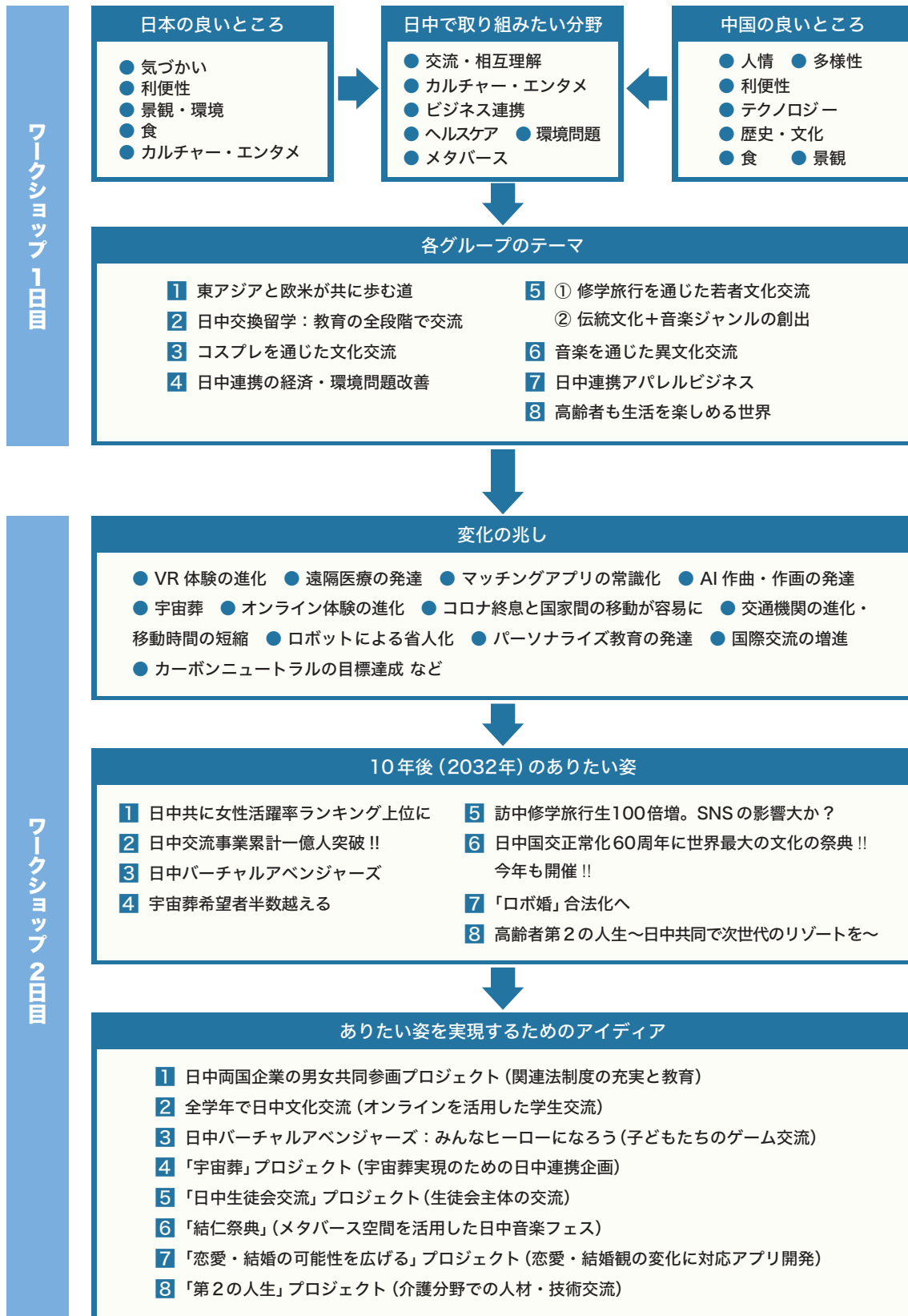
(7) 参加者の所属校

青山学院大学、亜細亜大学、神奈川大学、慶応義塾大学、神戸大学、島根県立大学、上智大学、東京大学、東京農工大学、東洋大学、一橋大学、日本女子大学、早稲田大学、立命館大学、日中学院、南京大学、南開大学、復旦大学、武漢大学、北京外国語大学

2 ワークショップの実施成果

(1) アウトプットサマリー

※1～8の番号はグループの番号と一致



(2) 1日目 スケジュール 9月6日(火) 10:00～16:30

事務局説明	司会進行役／山田 典史 氏
開会挨拶	笹川平和財団／安達 一 常務理事
基調講演	「最新のDX事例と未来を拓く発想方法」 日本能率協会総合研究所 MDB 業本部エグゼクティブフェロー／菊池 健司 氏 「日中DXから見る未来の協力の可能性について」 36Kr ジャパン・パートナー／王 瑩影 氏 パネルディスカッション／質疑応答
ワークショップ全体像の説明	フューチャーセッションズ ファシリテーター
(ランチ休憩)	
ワークショップパート	目的と進め方の共有（イントロダクション／チェックイン） ワールドカフェ ※参加者の関係性を構築 ラウンド 1：「日本の好きな / 関心があることは？」 ラウンド 2：「中国の好きな / 関心があることは？」 ラウンド 3：「日本と中国で一緒にやってみたいこと(テーマ)は？」 マグネットテーブル ※チーム形成 ● 一人ひとり「日本と中国で一緒にやってみたいこと(テーマ)」を書き出し、お互い用紙を見せ合いながら、チームを形成する。 テーマの「問い」をつくる ※チーム内の合意形成 ● クイックプロトタイピング ● チーム内で対話し、チームでとりくみたい「日本と中国で一緒にやってみたいこと(テーマ / 問い)」を決める

(3) 基調講演概要

「日本のDX事例」、「中国のDX事例」について講演。
パネルディスカッション、質疑応答を通じて、最新のDX事例と、日中の協力の可能性について理解を深めた。



「最新のDX事例と未来を拓く発想方法」

ビジネスパーソンの検索ワードで「DX」が増えている。政府は「デジタル田園都市構想」としてDXを推進。市場もDX 銘柄認定など DX への取り組み状況を企業の評価基準として採用。一見、DXに関係ない企業もDX スタートアップに投資しているケースがある。DX の最新事例として、中国、アメリカ、北欧、イスラエル、スイスに注目している。

菊池 健司 氏

日本能率協会総合研究所 MDB 業本部エグゼクティブフェロー



「日中DXから見る未来の協力の可能性について」

中国の都市部の若者の 1 日の生活は、ほぼDXサービスでなりたっている。中国はすぐにサービスインするため、導入してから新たな問題が出てくることが多い。ルールを整備しながら対応している。競争が激しいが、その分、勝ち残る企業は強い。グローバル展開する企業も多く、日本政府が海外の新興企業の投資を誘致しているので、日中協業のチャンスは広がっている。

王 瑩影 氏

36Kr ジャパン・パートナー

パネルディスカッション

中国のDXの実装のスピード感には目を見張るものがある。規制でがんじがらめになっている、日本との差を感じる。日本では実現できているもの、中国は出来ていない分野も多い。中国では「まずやってみる」という感覚で社会実装しながら手直ししている。中国ビジネスは短期志向。先を考えると 3～5 年。長期的な取り組みや日本の戦略が上回るのではない。中国のDXの進み方は、農村と都市によっても大きく異なる。日本はほぼ全土にインフラが整備されているが、中国ではまだ整備されていない地域が多い。インフラの遅れを補うためにデジタル化が進みやすいのではない。これからは、人を幸せにするハッピーテック分野も伸びてくると思われる。



基調講演 質疑応答

Q DXは人間の生活を便利にしているが、他にどんな変化を与えるだろうか？

A 逆に不便なもの、一手間かけるものに価値を見出すこともあるのでは90%は便利だけど、10%は不便さが残るものが受けるようになるのでは。

Q デジタル化が進むと、デジタルテロやハッカーの被害も増えるのでは？

A 必ず発生する。いちごっこの面もあるが、セキュリティやブロックチェーンなどはDXの中でも熱い分野として常に注目されている。

Q 日本と中国のそれぞれの強みや、どう組み合わせるといいか。

A それが見つかると思う。日本は技術力が強いがマネタイズするイメージがない。AIの活用においても、中国ではアプリなどに使う事例が多く、日本では基礎研究に使う事例が多いが、長い目ではそこも強みになるのでは。中国には、日本の背中を押す存在になってほしい。



(4) ワールドカフェ（日中両国の良いところ）

ワールドカフェ※の手法を用いて、3～4人1組に分かれて話し合い、メンバーをシャッフルしながら、①日本の良いところ、②中国の良いところ、③日中で一緒にやってみたいことを順番に可視化。

①日本の良いところ

7～8人の6グループに分かれて、「日本の好きな（関心がある）ところ」について対話。



気づかい

マナー、サービス精神、細かいところの追求、私的な空間への尊重、個人情報大切にしているところ、思いやり

利便性

サービス業、コンビニ、電車が便利、交通状況がいい、ドライブが楽しい、交通機関が発達している、国土が狭くてすぐ旅行にいける

景観・環境

カオスな東京のまちなみ、空気がきれい、美景と美食、緑と花、温泉、トイレ

食

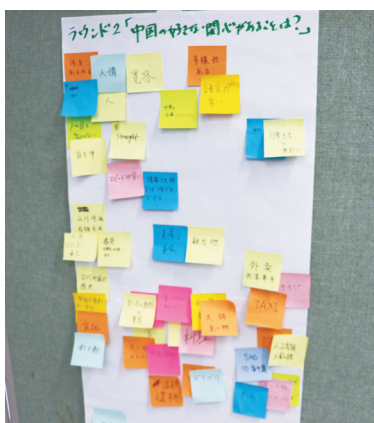
米、日本料理、たこやき

カルチャー・エンタメ

アニメ、テレビコマーシャル、宝塚、JPOP、伝統文化

②中国の良いところ

続いてグループ間でメンバーをシャッフルし、「中国の好きな（関心がある）ところ」について対話。



人情

活気がある、人情、寛容、スピードが早い、割り勘

多様性

多様性、言語が多い、人の目を気にしない、自己中

利便性

日常生活の便利さ、携帯さえ持てばなんでもできる、フードデリバリー、タクシー

テクノロジー

シェアビジネス、ゲーム、インフラ投資、アプリ、SNSの集中度、人工知能

※ワールドカフェとは、カフェのようなリラックスできる空間を演出し、共通のテーマについて参加者が創造的なアイデアを生み出すための話し合いの形式。参加者が特定のテーマについてどのような考えを持っているのか短時間で収集し、共有することができる。

(5) ワールドカフェ（日本と中国で一緒にやってみたいこと）

さらにメンバーをシャッフルし、「日本と中国で一緒にやってみたいこと」について対話を実施。
交流・相互理解、カルチャー・エンタメ、ビジネス連携、ヘルスケア、環境問題、メタバースなど6つの分野に関心が集まった。

交流・相互理解

- 交流
- 協力
- 理解
- 初等・中等教育で学生交流会
- 相互理解
- 日中の人材交流
- 留学・旅行・文化交流
- 日中交流の新たなプラットフォーム
- 留学や交流会での話し合いを通じたステレオタイプの解消
- 交流会・検討会(お互いのいいところを学び、身につける)
- 若者文化、交流会
- 若者向けの文化融合(例えば日中共同の新年祝い)
- 日中交換留学“全学年”

カルチャー・エンタメ

- アイドルプロデュースしたい
- アイドルグループ
- ROCK IN EAST ASIA
- 舞台演出
- 一緒にコスプレしようぜ
- 文化
- メディアの活用(音楽、アニメ) グルメ交流会、食事会

ビジネス連携

- 日本の「思いやり」と中国の「デジタル」技術
- 地方創生
- 宇宙開発の推進
- 新卒向けの仕事のネットワーク
- 人材の交流
- 第三国へ進出

ヘルスケア

- 「思いやり」であふれる介護サービスの共同開発
- 高齢者へのヘルスケアや集中看護、在宅看護など医療機関を共同で建設する
- 高齢化社会に向けて日中間での、介護経験の共有と、DX経験の共有

環境問題

- テクノロジーやビジネスの連携による環境問題の解決
- 日中連携による環境問題の改善環境

メタバース

- 日中共同フェス @ メタバース
- メタバース内の協力

(6) グループ別テーマ設定

「日本と中国で一緒にやってみたいこと」でグループをつくり、考えたいテーマと「問い」を作成。
各参加者は、これまでの対話を踏まえ「日本と中国で一緒にやってみたいこと」を考えて紙に書き出し、共に対話し課題を解決していきたい仲間を探した結果、8つのグループが結成された。さらに、各グループは、日中協力の観点から取り組んでみたいテーマについて意見交換の上、素案を作成して参加者全体に共有。第2日目（9月9日）の本格対話に向けた道筋をつけた。

グループ 1 テーマ 東アジアと欧米が共に歩むためには？
問 い 未設定

グループ 2 テーマ 日中交換留学：教育の全段階で学生交流会。「全学年」でやりたい。相互理解。
問 い どうすれば、相互理解のきっかけが作れるだろうか。

グループ 3 テーマ コスプレを通じた文化交流
問 い どうすれば私たちは日本と中国の大学生の交流を増やせるか。

グループ 4 テーマ 日中連携による経済・環境問題の改善
問 い 未設定

グループ 5 テーマ ①修学旅行を通じた若者の文化交流
 ②伝統文化を取り入れた新たな音楽ジャンルの創出
問 い 未設定

グループ 6 テーマ 音楽を通じた異文化交流♪
問 い どうすれば日本と中国の国境を超えたお祭りを開催できるか

グループ 7 テーマ 日本と中国の強みを活かしたアパレルビジネスをやってみたい
問 い 未設定

グループ 8 テーマ （高齢になって）行動不便になっても生活を楽しめる世界を日中で協力して実現したい
問 い 未設定

(7) 2日目 スケジュール 9月9日(金) 13:00～17:30

イントロダクション	本日の目的と進め方の説明
ワークショップ パート	未来の兆しをとらえる ブレインストーミング ● テーマの未来に影響を与えそうな変化の兆しをグループ内で出し合い、影響の大きそうな変化 TOP3 を全体に共有する 10年後のありたい姿を描く 未来編集会議 ● 10年後の2032年に、みんなが描く理想が全て実現した時、メディアにどのようにとりあげられたか、新聞記事の形式で描く ● 未来に向かうプロジェクトアイデアを考える クイックプロトタイピング ● 10年後のありたい未来を実現するための「プロジェクトアイデア」を創発し、ワークシートにまとめる 全体共有 ● 全体に共有し、最終発表にそなえる
発表パート	最終発表（プレゼンテーション） グループ1から順に、各グループのアウトプット（各グループのアウトプット（未来編集会議・プロジェクトアイデアシートの2点）を全体に共有し、ゲストと質疑応答を行う ゲスト 東京大学大学院 法学政治学研究科／高原 明生 教授 笹川平和財団／角南 篤 理事長 笹川平和財団／安達 一 常務理事
講評	東京大学大学院 法学政治学研究科／高原 明生 教授
閉会挨拶	笹川平和財団／角南 篤 理事長
記念撮影	

(8) 2日目ワークショップパート テーマに影響を与える変化の兆し～ありたい未来像を描く

ありたい未来像に影響を与えそうな“変化の兆し”についてアイデアを出し合い、グループ毎にトップ5を選定。未来像に影響を与えそうな変化の兆しを加えた10年後(2032年)にありたい未来を修正し、ありたい未来が実現している時に起きていることを新聞記事の形で表現した。

その後の対話では、ありたい未来像実現のための企画(プロジェクト名、趣旨、活動内容、ステークホルダーなど)を考え、アイデアシートに取りまとめた。

下記の表のほかに「変化の兆し」は、自動翻訳技術、SNSの流行、アクティブラーニング、メタバース、VR、XR、AI、カーボンニュートラルエネルギー革命、介護ロボット、ビッグデータ、遠隔医療などの意見が見られた。

VRによる仮想体験が進化する

- VRツアーが増える
- VRでの体験が進化する
- VRで声が変わる
- 音響技術が進化しVRでも臨場感が高まる

新しいサービスが生まれる

- マッチングアプリが当たり前になる
- AIによる作曲・作画が増える
- 宇宙葬が増える

オンラインでの体験が進化する

- オンラインでの活動が増える
- オンラインイベントが増える

移動が便利になる

- コロナが終息し国の間の移動がしやすくなる
- 交通機関が進化し移動時間が短縮される

ロボットによる省人化が進む

- 介護ロボットにより介護の省人化が進む
- ロボットが増え生活が便利になる

学習観が変わる

- 個人にあった教育が増える
- 国際交流が増える

環境問題が改善する

- カーボンニュートラルの目標が達成される

(9) 最終発表（プレゼンテーション）

グループ 1 発表テーマ：日中のジェンダー平等

在りたい姿

日中共に女性活躍率ランキング上位に

女性活躍支援システムが大いに貢献。ジェンダー平等についての基礎を障害教育に導入。就職率向上、育休取得施策など。

実現のための
アイデア

「日中両国企業の男女共同参画プロジェクト」

男女平等に関心を持ち、実績や影響力のある日中両国の企業が共同プロジェクトを立ち上げる。

発表概要

西洋からはじまったジェンダー平等の意識を、日本と中国の違いを認識しつつアジアらしいジェンダー平等を模索したい。育休産休の制度や、ジェンダー教育、政府によるガイドライン作成などを整備していきたい。最初の一步としては、目の前のセクハラ・パワハラにNOを言うことから始めたい。



質疑・感想



日中共にジェンダーランキングが低いところから着想していると感じた。アジアならではのモデルと言っているが、どんなイメージがあるか



具体的なものはないが、あらゆる点で、欧米の思想に合わせすぎという印象があるので、日本と中国が協力してアジアらしさをだしていければと思う。

グループ 2 発表テーマ：国際交流のボーダーをなくす

在りたい姿

日中交流事業累計一億人突破!!

若い世代の相互理解進む。「全学年で交流会を」をスローガンに、小学生～大学生を対象にした交流プロジェクト。

実現のための
アイデア

全学年で日中文化交流

日中の教育機関で両国の学生交流会を企画、実施、小～大学までの学校のクラスまたは希望者で交流会を実施。

発表概要

小中高大すべての年代で交流を行い、相互理解を進めたい。学生同士の交流を通じて、先生も若い世代の考え方を知ることができ、市民全体にも理解が広がる。リアルで移動ができなくても、オンラインを活用することで、あらゆる世代を取り残すことなく、交流できるようにしたい。



質疑・感想



オンラインシステムを使うのは現実的。具体化するのに、どこから手をつけるか？



まずは日本語を勉強している中国の方と、中国に興味を持っている日本人学生の学校単位でのマッチングが最初だと思う。

グループ 3 発表テーマ：バーチャル世界で一緒に戦うことで 日中の子供たちの間に真の友情を生み出す

在りたい姿

日中バーチャルアベンジャーズ

バーチャル世界のゲーム上で、大人の子どもも日本と中国のアニメや映画のヒーローになりきって楽しむ。

実現のための アイデア

日中バーチャルアベンジャーズ

みんなヒーローになろう。子供向けのゲームをつくる

発表概要

VR上で日中の子どもが一緒に遊ぶことで、友情を育んでほしい。
日本や中国の英雄になりきって、ゾンビと戦うVRゲーム。
まずは、脚本を書くことから始めたい。



質疑・感想

Q 小さい頃から協力して仮想の敵と戦うことで友情を育むということと理解したが、戦うことが必要か？育てるゲームなどの形もあるのではないかな？

A 戦うことが印象に残るのではないかなと思った。

感想：子どもたちの成長を待つより、どんなゲームにしたいかなどを、集まって話す場などをつくることも価値があるのではないかなと感じた。

グループ 4 発表テーマ：日中連携による宇宙開発

在りたい姿

宇宙葬希望者半数越える

日中連携開発による宇宙葬により、日中両国で進む高齢化による埋葬地不足を解消。

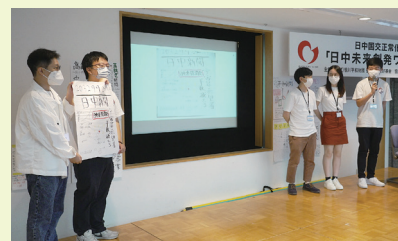
実現のための アイデア

「宇宙葬」プロジェクト

宇宙葬に関する世界基準設定。国際会議で日中の宇宙開発協力の決定。
日中企業の技術開発連携。

発表概要

日中 × 宇宙の未来を検討。
日中が競合しそうな分野だが、埋葬地不足や、高齢化問題、環境問題などの共通の課題を解決するためということで、協力できるのではないかと考えた。
トップダウン型で進める必要があると考えている。



質疑・感想

感想：宇宙空間という場で安全保障の視点を除いた協力関係を築くことは難しいと感じていた。アニメ監督の押井守氏が「宇宙とはあの世だ」と言っていたので、宇宙葬はぴったり嵌ると思う。日中共通の宇宙ビジョンを持ってほしい。

グループ 5 発表テーマ：修学旅行を通じた両国の学生交流促進 / 訪日・訪中修学旅行生増加のために必要なことは何か

在りたい姿

訪中修学旅行生100倍増。SNSの影響大か？

人気アプリ「小紅書（レッド）」を通じて中国に関心をもって中国に修学旅行に訪れる学生増。

実現のためのアイデア

「日中生徒会交流」プロジェクト

生徒会主体で、姉妹校提携を増やして、交流を増やすプロジェクト。インスタで中国の写真を投稿、中国版インスタ「レッド」に誘導。

発表概要

日中の学生の交流が進み、中国に訪れる学生が100倍になる未来を考えた。

学生主体で進めた方がいいと思い、生徒会ベースでの姉妹校提携を考えた。SNSを活用し、中国のいいところを紹介するところから興味を持ってもらいたい。ビジネスとして旅行会社を巻き込みたい。



質疑・感想

Q なぜ、日本から中国に訪問することを中心に考えたのか？修学旅行の効果は？

A 最終的には双方向を考えたが、まずは日本からと思った。
効果としては、生の情報に触れるのが、第一だと思った。

Q 修学旅行生に何を得てもらいたい？

A 関心をもってもらうきっかけになってほしい。一学年100万人の10%でも中国に行った経験があれば、日中の関係改善にもつながると考える。

グループ 6 発表テーマ：音楽を通じた文化交流 / どうすれば、日本と中国の国境を超えたお祭りを開催できるか

在りたい姿

日中国交正常化60周年に世界最大の文化の祭典!!今年も開催!!

参加者数2億人突破。VR上の開催。
日中の最新トレンドが楽しめる。日中合同のアイドル公開オーディション

実現のためのアイデア

「結仁祭典」

VR上でのフェス。音楽や食、ビジネスにファッションなど、日中の最先端のトレンドを取り込んだ多様なブースがある。

発表概要

音楽を通して、お互いの文化を知りたいと考えた。VR空間には音楽や食、ビジネスにファッションなど、日中の最先端のトレンドを取り込んだ多様なブースがある。オンラインで開催することで、誰でもどこでも参加できるし、VR技術の発展によって、オンライン空間の臨場感が高まっている。



質疑・感想

Q SXSWのイメージはとて面白い。場所はどこでやる？

A オンラインメインだが、上海の万博跡地を活用できるのではないかと。日中同時開催や交互開催も面白いと思っている。

グループ 7 発表テーマ：人工知能時代における「恋愛・結婚」への見直し

在りたい姿

「ロボ婚」合法化へ。

結婚法改正法案議会承認。マッチングサービスが主流になる中で、ロボットとヒトの結婚も認められるようになる。

実現のためのアイデア

「恋愛・結婚の可能性を広げる」プロジェクト

人工知能時代における恋愛・結婚観が変化することによって、新たなマッチングアプリを開発していく。

発表概要

人工知能自体における、恋愛と結婚を考えた。AIが発展することで、人間とロボットの恋愛の可能性を考えた。マッチングアプリへの抵抗感も薄くなるのではないかと。企業はAIのアルゴリズムを進化させたマッチングアプリを開発し、政府は法制度を整備する。大学などとも交流会を行い社会制度について考える。



質疑・感想

感想：未来の日中関係がどうなるか或いは、それぞれの国の価値観と関係なく、個人として等距離に、生活のなかでどのような未来がありうるかを考えた面白い議論だった。

グループ 8 発表テーマ：行動不便になっても生活を楽しめる世界を日中共同で実現したい！

在りたい姿

高齢者第2の人生～日中共同で次世代のリゾートを～

介護ロボットや、遠隔医療で安心してすごせる高齢者向けのリゾート。移動が困難でもVRツアーで楽しめる。

実現のためのアイデア

「第2の人生」プロジェクト

- ①人的交流：医療関係者の交流、介護者の交流、高齢者の交流。
- ②技術的交流：日本→中国（介護ノウハウの提供、医療設備、治療方針）
中国→日本（IT技術、データの提供）。

発表概要

日中両国で高齢化が進んでいるので、介護サービスを考えた。体が不自由になっても、メタバース内で勉強ができたり、自動運転が進化することで、乗馬クラブではなく乗車クラブができ、運転を楽しむことができる。日本と中国それぞれの強みを活かした、人的交流と技術交流を進めたい。



質疑・感想

Q なぜ玉ねぎ新聞？

A 中国のSNSで玉ねぎ新聞というアカウントがあって、拝借した。

感想：高齢者の問題は日中共通の問題。暗い部分として捉えがちだが、日中両国で知恵を出し合って、楽しもうという発想がよかった。

(10) 講評コメント



高原 明生 氏

東京大学大学院 法学政治学研究科 教授

日本と中国でいっしょに実現したい未来を考えるという場にふさわしい、若者らしく自由な発想による発表ばかりで、楽しく聴かせてもらった。今回は、未来の話ということだったが、日本と中国それぞれ、また日本と中国の間にも、目の前の現実的な課題があるので、そこからも目を逸らすことなく、取り組んでほしい。

本日のアウトプットそのものも、みんなが実現したい未来として、とても価値があるものだが、そのプロセスとして、日本と中国の学生同士が、共に未来を語り合う姿に感銘を受けた。

今日のつながりから、さらに個人的にも交流を深めることで、日中両国ならびにその交流に貢献して欲しい。

3 ワークショップの開催告知

開催告知用ポスター

**日中国交正常化50周年記念
日中未来創発ワークショップ**
参加者を募集します！

参加無料 次世代を担う日中の学生たちが未来に視点をおき、日本と中国のさまざまな分野の協力の可能性について、その課題や解決策を話し合います。2日間のワークショップの対話を通じてお互いの背景や考え方に理解を深め、新たな気づきや価値観が生まれることを目指します。

基調講演 ※基調講演タイムは変更になる可能性があります。

最新DX事例と未来を拓く発想方法
日本経済産業省 総合政策局 政策企画課 長 菊池 健司氏

日中DXから見る未来の協力の可能性について
36Kr ジャパン・パートナー 王 瑩影(ワン・インシン)氏

講評
東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 高原 明生氏

1日目 9月6日(火) 10:00~16:30
お互いを知り、チームを作り、一緒に取り組む「問い」を見つめます。

2日目 9月9日(金) 13:00~17:30
「問い」から「ありたい未来」を描き、実現するための「アイデア」をまとめます。

お申し込み
① 日本人学生・中国人留学生の方
② 日本と中国の未来の協力の可能性を考えてみたい方
③ 国籍、性別、年齢は問いません
④ 会場にお越しいただける方
⑤ 2日間を通して参加できる方

30名程度
※応募多数の場合は抽選を行います。抽選の方にもご案内をさせていただきます。
※コロナ感染症拡大などの状況により完全オンライン開催となる可能性があります。
※応募結果と開催要項(オンラインに変更等)は、8月末までにご連絡いたします。
※応募フォームに記載された個人情報(メールアドレス等)は厳重に管理いたしますのでご了承ください。

**8月26日(金)までに
応募フォームから
お申し込みください。**

場所
〒107-8444 東京都港区赤坂1丁目2番2号
日本財団ビル 2階 会議室
最寄駅：新大塚駅(有明線)徒歩5分
最寄駅：新大塚駅(有明線)徒歩5分

主催：公益財団法人世川平和財団 世川日中友好基金 協力：公益財団法人日本科学協会、京論壇、日中学生会議
お問い合わせ窓口：日中未来創発ワークショップ事務局 spfpr@sopf.or.jp
※ご不明な点等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

**未来創発
ワークショップ タイムスケジュール**

1日目 9月6日(火) 10:00~16:30

9:30	受付開始
10:00	司会挨拶、事務局連絡 開会挨拶 安達 一 世川平和財団事務局長
10:20	基調講演 ▶最新のDX事例と未来を拓く発想方法 菊池 健司氏 日本経済産業省総合政策局 政策企画課 長 ▶日中DXから見る未来の協力の可能性について 王 瑩影氏 36Kr ジャパン・パートナー
11:40	ワークショップイントロダクション
11:50	事務局連絡
12:00	昼食
13:00	ワークショップ1 ワールドカフェ
14:00	休憩(10分) ワークショップ2 グループ作り グループ対話 クロージング
16:30	事務局連絡

2日目 9月9日(金) 13:00~17:30

12:30	受付開始
13:00	ワークショップ3 イントロダクション ブレインストーミング 全体共有
15:00	休憩(10分) ワークショップ4 クロージング
16:00	各チーム発表準備
16:30	各チーム発表 講評 高原 明生氏 東京大学 大学院法学政治学研究科 教授
17:20	閉会挨拶 角南 篤 世川平和財団理事長

※プログラムは変更になることがあります。
※ワークショップ会場は、午前10:00より開放します。
※グループ内の対話や後のグループとの交流の場としてご利用いただけます。

基調講演 登壇者

日本経済産業省総合政策局 政策企画課 長 菊池 健司氏
民間企業、官公庁、独立行政法人、大学、自治体等からの要請に応じ、公開情報を中心とした情報提供事業に長年携わる。リサーチ力を基盤とした企業の未来戦略・新事業開発の支援を中心に、情報収集・活用手法のセミナー・研修、未来予測・未来ライフスタイル、特定ビジネスに関する将来トレンド解説、人材育成等を日々実施している。

36Kr ジャパン・パートナー 王 瑩影(ワン・インシン)氏
2010年に北京外国語大学日本語学科を卒業し、中国TOP大学に特化した日本企業向けの新卒採用支援プログラム「AHRP」に参加した。2015年に来日し、広告会社や不動産投資会社を経て19年に36Kr Japanの総務マネージャーとして入社した。現在は中国テック企業の最新動向を紹介するメディア業務全般を担当。

公益財団法人世川平和財団 世川日中友好基金
1989年に設立された日中関係最大規模の民間基金。日中両国の相互理解促進、人権尊重、協力を基盤に、未来を語る活動のもと、教育文化・国際交流・学術文化・人材育成、日本教育支援など幅広い活動を展開している。

公益財団法人日本科学協会
1924年に科学者の相互協力と科学知識の普及を目的として設立。「日中未来創発プロジェクト」は、中国の大学への日本訪問団派遣、日本研究大会、日本研究論文コンクール、Panda杯全日本青年学術コンクールなど日中両国の将来世代の相互理解を促進する多様な活動を展開している。

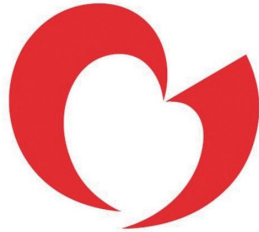
京論壇
2005年に東京と北京大学の学生が創設した学生交流団体。毎年、日中両国の学生がテーマ別の分科会に分かれて議論を行っている。「日中友好・学生交流」という理念の下、互いの文化・価値観の対話、課題解決に向けた話し合いを通じて、専ら交流に終わらない、深層からの相互理解を目指している。

日中学生会議
1986年に日本人学生有志が設立した学生交流団体。毎年、日中の学生がテーマ別の分科会に分かれて議論を行っている。「日中友好・学生交流」という理念の下、互いの文化・価値観の対話、課題解決に向けた話し合いを通じて、専ら交流に終わらない、深層からの相互理解を目指している。

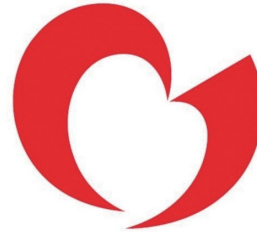
お問い合わせ窓口：日中未来創発ワークショップ事務局 spfpr@sopf.or.jp
企画・運営協力：株式会社フューチャーセッションズ

4 日中国交正常化50周年認定行事について

本事業は、外務省及び日中国交正常化50周年交流促進実行委員会より「日中国交正常化50周年認定行事」(認定番号:63)に認定されました。



日中国交正常化 50 周年



日中邦交正常化 50 周年

5 取材実績

- ① 【毎日新聞】 未来の課題解決へ日中の学生が提案 国交正常化50年記念し企画
<https://mainichi.jp/articles/20220913/ddl/k13/040/002000c>
- ② 【日本経済新聞】 日中の絆、どう紡ぐ 若者たちが模索する次の50年
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE056T00V00C22A9000000/>
- ③ 【人民中国】 中日両国の10年後を若者が予想
http://www.peoplechina.com.cn/zrjl/202209/t20220913_800306376.html
- ④ 【36KR ジャパン】 次世代を担う日中の学生、「DX」をテーマに対話「日中未来創発ワークショップ」開催
<https://36kr.jp/203183/>
- ⑤ 【上海東方衛星テレビ】 中日大学生対2032的预期 十年后的我们正在做什么
<https://www.youtube.com/watch?v=7vzJqIVikL0>
- ⑥ 【中国青年報】 中日大学生在“日中未来创发研讨会”上为两国关系发展建言献策
http://news.cyol.com/gb/articles/2022-09/13/content_NPZ9Ki8WV.html

6 その他、対外発信（ウェブサイト、ブログ、SNS など）

- ① 笹川平和財団公式 Twitter
https://twitter.com/SPF_PR/status/1567032573133717504
- ② 日本科学協会公式ブログ／Twitter
<https://blog.canpan.info/kouryu/archive/164>
<https://blog.canpan.info/kouryu/archive/165>
https://twitter.com/jss_info/status/1569547284043661314
- ③ 京論壇 Twitter アカウンド
<https://twitter.com/jingforum/status/1556157767102386176>
- ④ 日中学生会議 Twitter アカウンド
https://twitter.com/jcsc_japan/status/1568071750335750146
https://twitter.com/jcsc_japan/status/1568434112788320256

上記 URL は 2022 年 10 月発行時点のものです。

7 参加者アンケート

ワークショップに参加した感想について

- 活発な交流のための珍しい機会でした。
- 日中に関わるテーマについてまだ日本人と交流したことはなかったからです。日本人の方もこういう考えを持ってるんだって思いました。あとは中国人の友達はもちろんですが、日本人の友達も作りました！
- 他の学生と交流することができた。
- 日中の学生が協力し、新しい発想が得られた。
- 普段知り合うことのないような方々との交流ができたのがとても有意義でした。
- 他の大学の学生と十分意見交流したからです。
- 周りの友達との交流で新しい問題意識をもつようになった。
- 中国に関心のある日本人学生と初めて交流することができたから。
- DX やテクノロジーなどの分野について詳しく知ることができて、また中国の学生と一緒に議論することができたのはまたとない貴重な経験だったので、楽しかった。一方でワークショップの時間不足や開催日程が空いていることなど日時の分野で改善してほしい部分はあった。
- コロナでずっと日本人と交流する機会がなかったので、交流イベントに参加しても大体オンラインで終わって、話すテーマもあまり面白くなかったです。今回こうやって日本人と対面で話して、そして話題はどんどん深くなるという形はすごかったと思います。自分と同じ考えを持っている方と知って、お互いについての理解が深くなるから議論する流れはよかったと思います。
- 未来志向でアクティブになれたから。
- 中国人の友人を作ることができ、一緒に課題に取り組むことができたのは楽しかった。
- 発表に対する先生方の好評は質ややる気に濃淡があり残念だった。
- 思ったより雰囲気がいいし、話しやすい環境だと思います。
- みんな積極的に交流し合い、素晴らしい雰囲気がある。
- 今回のワークショップの企画活動に参加させていただき、ありがとうございます。この活動は日中の若者を理解してもらう絶好なチャンスだと思います。日本の方が優しくて、賢くて、そこからいろいろなことを勉強しました。今後、日中のいい未来を築くように頑張ります。

8 主催団体・協力団体

(1) 主催者

公益財団法人笹川平和財団 笹川日中友好基金（尾形 慶祐、早乙女 尚）

1989年に設立された日中間最大規模の民間基金。日中両国民の相互理解促進、人を育て、協力を重ね、未来を創る方針のもと、政治家交流、防衛交流、学術交流、人材育成、日本語教育支援など幅広い活動を展開している。

笹川日中友好基金ウェブサイト <https://www.spf.org/programs/china/>

(2) 協力団体

公益財団法人日本科学協会（顧 文君、阿羅 美奈子）

1924年に科学者の相互協力と科学知識の普及を目的として設立。「日中未来共創プロジェクト」は、中国の大学への日本語図書寄贈、日本知識大会、日本研究論文コンクール、Panda杯全日本青年作文コンクールなど日中両国の将来世代の相互理解を促進する多様な活動を展開している。

日本科学協会ウェブサイト <https://www.jss.or.jp/>

京論壇（丸山 晴樹）

2005年に東大と北京大の学生が創設した学生交流団体。毎年、日中両国の社会課題について「学生ならではの視点」から徹底的に議論し、その成果を報告会・シンポジウム・出版などを通じて発信し、両国の深い相互理解の達成への一助となることを目指している

京論壇ウェブサイト <https://www.jingforum.org/>

日中学生会議（勝 隆一、上野 祐香、今井 美祐）

1986年に日本人学生有志が設立した学生交流団体。毎年8月、日中の学生がテーマ別の分科会に分かれて議論を行っている。「日中友好へ、学生の挑戦。」という理念の下、妥協のない本音の対話、課題解決に向けた話し合いを通じて、単なる交流に終わらない、深層からの相互の理解を目指している。

日中学生会議ウェブサイト <https://jcsc-japan.org/>

(3) 企画運営協力

株式会社フューチャーセッションズ

2012年創業。セクター横断の対話を通じて自ら課題解決を促すコンサルティング企業。単一のセクターだけでは解決できない複雑な問題が増える中、セクター横断の対話と共創の場「フューチャーセッション」を提供し、新規事業創出や組織変革、自治体・行政のまちづくり市民対話、スポーツ団体の社会連携活動など、様々なシーンにおいて一人ひとりが信じられる未来を実現できるよう、創造的な対話の場を運営している。

フューチャーセッションズウェブサイト <https://www.futuresessions.com/>

山田 典史氏（BC学院）

中国・北京市を中心に日本人留学生と中国人大学生の交流事業の企画運営に20年以上の実績を有する。本ワークショップの企画アドバイザーに就任。

9 実施評価（主催側の所見）

本ワークショップの実現にあたっては、主役である若者の視点をより多く取り入れる必要があると考えたことから企画立案の初期段階から2つの学生団体の委員会に協力を依頼し、両団体から4名の有志がワークショップの事務局メンバーとして参加をいただけることになった。その効果もあり、企画全体に若者ならではの意見・提案を反映させることができた。事務局に参加した学生たちからは国際交流イベントの企画・運営に携わる機会は貴重な良い経験になったという好評価をいただいた。

ワークショップの参加者は、昨今の友好ムードとは言い難い日中関係があることから応募者も少ないことが懸念されたが、想定を上回る人数の参加希望応募を受ける結果となった。最終的に中国人留学生31人、日本大学生16人が参加することになった。

ワークショップのプログラムは、参加者の交流と関係性の構築を重視し、チーム分け・テーマ設定とも参加者自身が決定する工夫を行った。その結果、各参加者のテーマに対する関心、意見交換に対するモチベーションも高まり、充実した対話に繋がった。ワークショップのテーマは「10年後の日中協力の可能性」と題して、既成概念や条件に囚われることなく自由な発想により対話を深めてもらうことを期待した。グループ内のさまざまな意見をまとめながら未来の構想を創りあげる過程は、決して簡単な作業ではなかったとみられるが、2日間という短い時間のなかで8つのグループから若者らしいユニークなアイデアが発表された。多くの参加者にとって日中の未来の担い手は自分たちであるという自覚を持つきっかけになったのではないかと考えられる。メンバー同士の繋がりも深められたことがアンケートや一部の学生から直接聴取したコメントから伺うことができた。また、多くの学生たちから誰かと話す機会を欲していたというコメントも多数聞かれた。コロナ禍の影響によってコミュニケーションの機会が減ってしまい、人と直接交流する機会を求めていることを痛感した。参加者のなかには関西地方や中部地方などの遠方から参加をいただいた方もいた。

基調講演とパネルディスカッションでは、基調講演にDX（デジタルトランスフォーメーション）分野に詳しい専門家2名に登壇をいただいた。日中の未来協力を語るうえでDX分野が重要な鍵となるという意見が企画段階において学生たちから多く聞かれたためである。日中の専門家が提供したDXに関する最新情報は、参加者の視野を広げるきっかけになり、今後、より実現性可能性の高い日中協力の未来像を描くための発想源のひとつになったものとする。各グループの発表においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）の協力を必要とするものが多くみられた。

日中の次世代を担う若者が直接交流する場を民間レベルで開催し、日中関係の未来に向けて前向きな希望を示すことができたと思う。また、参加者たちが2日間の対話を通じて得ることができた、気づき、お互いの背景への理解は、経験や人脈となり、これから社会で活躍していくなかでさらに役立っていくものとなることを期待する。

最後に今回の開催にあたり、多大なるご協力をいただきました菊池先生、王瑩影先生、高原明夫先生、日本科学協会の職員の皆様、フューチャーセッションズの皆様、山田様、そして教え子の参加を後押しいただいた先生方、メディア各社の皆様、その他、多くの関係者の皆様のご助力によって無事に開催することができました。心より感謝申し上げます。

日中未来創発ワークショップ事務局一同

2022年10月発行

発 行 公益財団法人笹川平和財団

〒105-8524 東京都港区虎ノ門 1-15-16 笹川平和財団ビル

電話：03-5157- 5430（代表）

ウェブサイト：<https://www.spf.org/>

編 集 日中未来創発ワークショップ事務局（笹川日中友好基金内設置）